

## 岩手のイワナ

村上 隆

盛岡は中心街を川が流れ、周辺を岩手山をはじめとする峰々に囲まれた、自然豊かな美しい街である。その中でも私の好きな風景は、晩秋のうっすらと雪を抱いた岩手山の姿であろうか。

昨年であるが、数年ぶりに盛岡市の西の外れにある岩山へと行った。その名の由来である岩の丘の上から望む岩手山は素晴らしいものであった。岩手山はまたの名を岩鷲山という。雪が山肌に鷲の造形を刻むのだ。私はこのとき初めて、岩手山に住む鷲の姿をはっきりと見る事ができた。

このような土地に住む盛岡の女性は、美しい人が多い。南部美人という言葉がある。盛岡に住んだことのある人ならわかることと思う。そうでない人も何となく想像して頂きたい。端正な容姿と、頬の少し赤らんだ…。おっと、話がどんどん脱線していく!!

そう、岩手のイワナは南部美人というか、とにかく美しいのである。彼女ら（オスのイワナもいるが）は、頬のかわりに腹が赤

みがかっている。腹黒いというのは、意地が悪い、または心がねじ曲がっている人間のことをさすが、彼女らは腹赤い。腹赤いというのは、岩手の美しい溪で育った端正な容姿の美人イワナのことでも美しい…ことであろうか。こんな彼女らを釣っていたなんて。

彼女らは、学名を *Salvelinus leucomaenis* といい、東北から本州中部にかけて普通に生息しているタイプであるらしい。都会ではほとんど見る事ができないためか、数が少ないためか雑誌などでは“幻の魚”と呼ばれているようである。

しかし、盛岡周辺ではごく普通に釣りの対象として釣られているように、決して幻の魚というイメージはない。いろんな溪を釣っていると、同じイワナなのであるが、その溪ごとに少しずつ個性があるようだ。先に書いたように腹が赤みがかっている（実際にはオレンジである）ものもあれば、黄色のものからうっすらと紫がかっているものまである。また、彼女らの魚体には白

やオレンジの斑点があるのだが、何となく斑点の大きさや形、全体の色彩、雰囲気が違うような気がする。

彼女らは、その昔、日本と大陸が陸続きだった頃、ほとんどの溪に広く生息していた。一部は海に下り、他の溪と交流していたであろう。やがて、海面が下降しはじめ、大陸と日本が離れたとき、その一部がこの狭い土地に封じられることとなった。中でも、他の溪と交流のない所では、独自の形態に変化していったものもある。溪それぞれに何となくその雰囲気が違うのは、そのようなことだと考えている。

さて、昨年春先に盛岡の実家へ帰ったとき、そんな彼女たちに会いに近くの溪に行ってみた。釣り場として選んだのは、盛岡の西、雫石町の小岩井農場の中をゆったりと流れる黒沢川という溪である。今まで一度も釣りに入ったことは無かったが、なかなかの溪相で以前から気になっていたものだった。

当日、近くの釣具店で、餌のキジ（鳥の雉ではなくミミズのこと）を手に入れ、溪へと向かう。そして溪の入り口に車を止め、入溪した。5.4mのカーボン竿に道糸0.5号、2.0mの通し仕掛け。ハリは7号のスレ針を用意した。はじめ、キジを餌に少々探っ

てみるが、全然当たりがない。水があまりにきれいなためか、キジ餌は余り良くないようだ（決して腕が悪いわけではない）。

仕方がないので、餌を現地調達で川虫に換えて再挑戦。川虫はマダラカゲロウの幼虫で、一般に釣りによく使われるチョロ虫の一種であるが、殻が固いため余り使われていないようだ。

しばらくして微かな当たりがあり、ややゆっくり間をおいて“合わせ”をくれてやるとハリ掛かりした瞬間、バレてしまった（逃げられたことをいう）。ヤマメの当たりだ。ヤマメは早合わせしないと、まずハリ掛かりしない。作戦を換え、ヤマメ対応に早合わせ気味にすることにしてしばらく、また微かな当たりがあり今度はすかさず合わせると強い引きがあり、やっとの事で取り込んだのは8寸ほどのイワナだった。実に数年ぶりの彼女との再会だ。この溪のイワナはやや黄色味がかっており、同時に紫がかっても見えた。実に美しい姿だ。その後3時間ほどで、4匹のイワナと、3匹のヤマメを釣り上げた。暫くぶりの釣果に満足げに暗くなった山の中を歩き、車へと戻った。車を動かしてしばらく、前方に白いものがひらひらしているのが見えた。何かと思えば、自分の車のワイパーに白い紙

が挟んである。「私有地により立ち入り禁止、小岩井農場」と書かれていた。みなさんは他人の土地に立ち入るときは、きちんと断ってから入るようにしましょう。

そんな彼女たちも、近年数がめっきり減少している。コギャル、アムラー（放流もの）などの進出だ。これは岩手の誇る南部美人イワナのピンチか。ああっ、清楚なはずの彼女たちが、だんだん変に染まっていくー!!

ということできりがないので、訳のわからない考えをするのはやめにしよう。私は現在、仙台に在住しているのだが、宮城のヤマメにちょっぴり浮気している。こちらもなかなか可愛いのだ。今度は宮城のヤマメについて真剣に何か考えてみようと思う。

(修復建技術コンサルタント)

